

また、20年度に国の2次補正予算の臨時交付金事業分として、ふるさと活性化基金へ積立てした3,710万円全額を繰入れ、国に認められた交付金事業へ充当するとともに、ふるさと納税によりいただいた寄附金342万円も、寄附者の希望事業へ充当(内訳別掲)します。

町債

町債(町の借入れ金)総額は前年度より伸びていますが、これは通常行なわれる普通建設事業に対する増額ではなく、「性質別に見た予算の特徴(2ページ)」にも掲げているように、繰上償還のための「借換債」や、地方交付税と一体として算定される「臨時財政対策債」が大きく伸びると見込んだためです。



人件費

統計調査に係る報酬の増や特別会計からの異動により0.5%の伸びとなっております。

ただし、全会計を含めた総人件費は、前年度より6,568万円ほど減少し

ています。

公債費

公債費(町の借金の返済)が3,36万円伸びているのは、前掲の繰上償還分で6,771万円程の増額となったためで、これを除くと、町債発行分は前年度より約3,400万円少なくなっています。

補助費

主に最上広域分担金について前年度まで実施していた繰替運用(分担金額を一時的に減額し、その分を後年度に計上負担する方法)をやめ、通常の方法に戻したことにより増加しました。

物件費

戸籍事務の電算システムの導入や、国の緊急雇用事業による賃金や委託料が増額となり、約1,900万円の伸びとなりました。

投資的経費

投資的経費のうち町の単独事業分は、国の緊急対策により20年度へ前倒したため少なくなっていますが、流雪溝整備や美しい森林づくり事業(間伐)などの補助事業分が増加したため、前年度より約4,500万円の増となっております。

特別会計総額は

総額15億5,697万円

国民健康保険と老人保健が大幅減

特別会計全体(水道事業の資本的収支を除く)では、1億552万円の大幅な減少となりました。

これは、国保事業勘定で最上広域連合への負担金が4,376万円、37.0%減額し、国保直営診療施設勘定(診療所分)は、診療所の最大限の経営努力を前提に5,206万円少ない予算規模となったこと、さらに老人保健事業が後期高齢者医療制度に移行し、今後平成20年3月診療分までに限った取扱いとなるため、前年比9,994万円減、率として98.1%減となったことが大きな要因です。

介護保険事業は、居宅介護サービス等の給付費が約8,800万円と大幅な伸びが見込まれ、1億259万円の増額しました。

農業集落排水事業は、町債の繰上償還のために増えています。これを除いた実質的な予算額は人件費の減額により、前年度より減少しています。

下水道事業も同じく、人件費の減額により減少しています。また、水道事業資本的収支でも、緊急時用連絡管整備が終了し、1億840万円の減少となりました。

特別会計への繰出金

国民健康保険事業勘定、老人保健事業、公共下水道事業、農業集落排水事業分は人件費の減額や制度改正により前年度比減となりました。一方、介護保険事業と後期高齢者事業は、介護サービスなどの保険給付費の伸びが見込まれることから前年度より増額となっております。

また診療所に係る分は1億9,954万円と前年度並みになっていますが、依然として一般会計に占める割合は高く、今後も利用者数の増減によって、町の財政運営が大きく左右されることとなります。



金山ふるさと寄附充当事業

温かなご支援を形に

平成20年度にスタートしたふるさと納税制度「金山ふるさと寄附」により、昨年12月末までに、82件、合計342万1千円をいただきました。寄附者の用途希望に基づき、次のとおり、21年

平成21年度 会計別予算総括表

会 計 名	平成21年度(千円)	平成20年度(千円)	比較	
			金額(千円)	増減率(%)
一 般 会 計	3,109,000	2,981,000	128,000	4.3
(上記のうち借換債を除いた計)	2,950,200	2,893,000	57,200	2.0
特 別 会 計				
資本的収支(借換債除く)	(114,800)	(223,231)	(△) 108,431	(△) 48.6
(借換債除く)	(53,800)	(223,231)	△ 169,431	△ 75.9
上記以外計(借換債除く)	1,556,970	1,662,490	△ 105,520	△ 6.3
(借換債除く)	1,531,670	1,644,790	△ 113,120	△ 6.9
国民健康保険特別会計				
事業勘定	74,480	118,240	△ 43,760	△ 37.0
直診勘定	453,160	505,220	△ 52,060	△ 10.3
老人保健特別会計	1,930	101,870	△ 99,940	△ 98.1
後期高齢者医療特別会計	53,320	58,870	△ 5,550	△ 9.4
介護保険特別会計	550,300	447,710	102,590	22.9
路線バス事業特別会計	12,640	11,740	900	7.7
農業集落排水事業特別会計	80,530	76,310	4,220	5.5
(上記のうち借換債を除いた計)	55,230	58,610	△ 3,380	△ 5.8
公共下水道事業特別会計	140,680	148,780	△ 8,100	△ 5.4
水道事業会計(資本的収支)	(114,800)	(223,231)	(△) 108,431	(△) 48.6
(上記のうち借換債を除いた計)	(53,800)	(223,231)	△ 169,431	△ 75.9
水道事業会計(収益的支出)	189,930	193,750	△ 3,820	△ 2.0
合 計				
資本的収支(借換債除く)	(114,800)	(223,231)	(△) 108,431	(△) 48.6
(借換債除く)	(53,800)	(223,231)	△ 169,431	△ 75.9
上記以外計(借換債除く)	4,665,970	4,643,490	22,480	0.5
(借換債除く)	4,481,870	4,537,790	△ 55,920	△ 1.2

()内は水道事業会計の資本的収支です。
 ・一般会計158,800千円、農業集落排水事業会計25,300千円、水道会計61,000千円の借換債を含みます。
 ・一般会計159,046千円、農業集落排水事業会計25,395千円、水道会計61,167千円の繰上償還金を含みます。

度事業分配し活用させていただきま

人材育成事業

・全国地域リーダー塾研修派遣 (30万円)

健康づくり

・健康づくり推進事業 (11万円)

産業振興

・園芸農業育成支援事業

定住交流

・地産池消推進事業 (30万2千円)

・街並み景観づくり100年運動 (19万5千円)

教育文化

・金山育英会運営費補助事業 (150万円)

・ふるさと壁面制作 (21万1千円)

今後の財政見通し

金山のニーズに合った運営を

町では、健全な財政運営を維持していくため、今後5ヶ年の財政計画を策定し、財政指標の予測を行っています。財政の健全化判断比率のうち、経常収支比率は90%以下で年々減少するように努め、実質公債費比率は町債発行の抑制により年々減少していくものと推測しています。

将来負担比率も、町債残高の減少や職員数の減少によりさらに低くなるものと見込まれます。

このように財政健全化に向けて取り組みを行います。これらの指標は国の地方交付税の動向に左右されることから、毎年財政計画を見直ししながら、目標を達成できるよう努めます。

町債の残高は、一般会計分で20年度末では約37億円、21年度末では35億5千万円程度に減少する予定です。

また、特別会計分を含めた全会計の合計では、20年度末で約69億9千万円、21年度末では約66億9千万円に減少します。

ただし、このうち約43%は、国から交付税として交付されます。

最上8市町村の21年度末における全会計分の市町村債残高見込みを見ると、金山町は少ないほうから3番目となっております。

町債残高は、引き続き適正な財政運営を進めることで、緩やかにではありますが減少していくと推測しています。

今後も町民の皆さんの声に耳を傾け、多様化するニーズを的確に捉えながら、堅実でスピーディーな行政運営に努めます。そして、21年度の町づくりテーマへ向け、一歩一歩着実に元氣のある町づくりを進めていきます。